

令和 7 年度

運営に関する計画

(中間評価)

令和 7 年 10 月 25 日報告

大阪市立長谷川小学校

大阪市立長谷川小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校は大阪市こども相談センター（中央・南部・北部）から措置され、児童心理治療施設である大阪市立長谷川羽曳野学園に入園している児童のみが通学している学校である。児童は全員、これまで厳しい家庭状況にあり、その成育歴から家庭・学校教育が十分になされておらず、環境を起因とする社会的・知的な発達に遅滞傾向にある。また、情緒的にも不安定な児童がほとんどである。本校への転入までに家庭・学校での養育・学習・運動の機会が十分に得られておらず、このため、学力的・体力的に極めて低位、厳しい状況にある。さらには、道徳的判断力や社会性・協調性などの面での課題も顕著である。

このような現状を踏まえつつ、ソーシャルボンドの育成を軸に将来の自立に向け、自尊感情の醸成、基礎的・基本的学力の定着とともに基本的生活習慣の育成と自ら学ぶ意欲の育成に力を入れることで、たくましく生き抜く子として育つよう、長谷川羽曳野学園と緊密な情報共有・指導連携を進めながら、でき得る限りのきめ細かな指導を続けていく必要がある。そのためには職員のバーンアウトゼロも目標とする。

中期目標**【安全・安心な教育の推進】**

○令和7年度の全国学力・学習状況調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を90%以上にする。

○令和7年度の全国学力・学習状況調査における「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を90%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○令和7年度の全国学力・学習状況調査における各教科の正答数が全国平均の7割に満たない児童の割合を0%にする。

○令和4～7年度の大阪市小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、前年度の標準化得点よりいずれも向上させる。

【学びを支える教育環境の充実】

○令和7年度の全国学力・学習状況調査の「5年生のときに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を、80%以上にする。

○令和7年度の小学校学力経年調査・校内調査の「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、80%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を 91%以上にする。
- 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。

本校の独自目標

- 児童全体の指導方針として PBS（ポジティブ行動支援）を取り入れ、肯定的行動のあふれる学校を創造する。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を 76%以上にする。
- 小学校学力経年調査における、国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.01 ポイント向上させる。
- 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して肯定的に回答する児童の割合を 91%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 81%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 75%以上にする〔ただし、事務局が定める学校行事等 I C T 活用が適さない日数を除く〕。
- 第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 1 を満たす教職員の割合を 80%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

(様式2)

大阪市立長谷川小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>○ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を91%以上にする。</p> <p>○ 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。</p> <p>本校の独自目標</p> <p>○ 児童全体の指導方針としてPBS（ポジティブ行動支援）を取り入れ、肯定的行動のあふれる学校を創造する。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【1-(1)、安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>児童理解、学力向上研修会を実施し、児童の理解に努める。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>・児童理解、学力向上研修会を年2回実施する。</p>	B
<p>取組内容②【1-(1)、安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>安全教育指導や避難訓練を計画・実施する。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>・計画に基づいて、年3回実践する。</p>	B
<p>取組内容③【1-(2)、豊かな心の育成】</p> <p>実施計画に基づき、楽しい学校生活を送ることができるように、児童会活動を充実させる。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>・計画を児童とともに考え、実施後の反省も行う。</p>	B
<p>取組内容④【1-(2)、豊かな心の育成】</p> <p>時間を有意義に使う。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>・時間を守る。計画的に時間を使う。</p>	B
<p>取組内容⑤【1-(2)、豊かな心の育成】</p> <p>自分や他人を大切にする（適切な言葉づかい）。トラブルが起きた際は、個に応じたきめ細かな指導に努める。PBS（ポジティブ行動支援）により、肯定的な行動をしやすい雰囲気を作る。</p> <hr/> <p>指標</p>	B

<ul style="list-style-type: none">・他人の良いところを見つける機会を持つ(月2回位)。・ライフスキル教育を実施する。・毎月、生活指導研究会を実施し、共通理解をする。	
<p>取組内容⑥【1-(2)、豊かな心の育成】</p> <p>自然や人とのふれあい体験や社会とのつながり体験などを工夫して実施する。</p> <p>音楽・劇鑑賞会などを行うことにより自ら表現する力をつける。</p> <p>言語活動を取り入れた授業づくりをすることで、児童の表現力を養う。</p>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none">・栽培計画を立て、計画的に実施する。玉手小学校との交流を計画実施する。・音楽・劇鑑賞会など鑑賞したことを参考にし、スクールフェスティバルの出し物を工夫する。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>① 毎年の年度移行に合わせて児童理解のための詳細な引継ぎ内容を文章化している。それを年度当初に点検・追記することで最新の情報に更新し、教員全体に提示・周知できた。また、大教大・市総合教育センターの支援を受け、PBIS(ポジティブ行動支援)にも取り組んでいる。エビデンスをもとにした児童理解に努めながら、積極的方向に関わり方を改善していくことで自尊感情を育みながら相互の仲間づくりを実現できた。</p> <p>② 避難訓練を計画に従って2回(5/13＝火事、11/5＝地震・津波)実施している。それぞれの災害のリスクに基づいた避難訓練のパターンを設定することで、より具体的な訓練ができ、細かな避難行動及びそれにつなげる心の準備ができた。常に真剣な態度と落ち着いた行動で、まとめの話も心静かに聞いていた。</p> <p>③ 4年生以上は月1回の委員会活動の時間に「全校児童が楽しめる・仲良くするために」と一生懸命考え、話し合いながら集会活動・クラブ活動を企画できた。また、低学年も高学年の思いや気持ちに応えようと説明や指示をよく聞いて、みんなで一緒に楽しめるよう、考え工夫しながら取り組んでいた。</p> <p>④ 「40分授業」が定着するとともに、業間のチャイムを無くても決められた時間に計画的かつ内容も充実させながら授業展開できた。学年を越えた全体指導の際も常に「時間管理意識」をもつことができていた。</p> <p>⑤ 毎月の「学園との連絡会」に臨む際、特に話したい児童を特定することで学園との連携・教育実践を実現できた。また、これにより、児童の豊かな学び・育ちに資することができた。</p> <p>⑥ 植物(花・野菜)の栽培計画に基づき、計画的かつ意欲的に実施できた。命の不思議と持続可能な社会に環境の保全がなくてはならないことについてしっかり考えさせられた。また、児童に学ぶことの意義や将来の生き方について考えさせるため、キャリア教育・ライフスキル教育の一環として、近隣の小学校(柏原市立玉手小学校)との交流を図り、合同での水道局・クリーンセンター見学・田植え・工場見学・スーパー見学・消防署見学等の校外活動を取り入れ、より一層の社会性を身に付ける教育の推進ができた。</p>	

次年度への改善点
後期に向けて、 <ul style="list-style-type: none">① 「TFI 評価項目」の内容・読み取り方についての共有・理解をさらに進める。② 訓練の質を向上させるための知識・情報のブラッシュアップ（磨きをかける）。③ 意図的・計画的に新しい活動内容にも取り組ませる。④ 日頃の自分達の時間の使い方を、客観的に評価できるような場を設ける。⑤ データリテラシー（情報を正しく理解し、分析、効果的に活用するための能力や知識）の向上。⑥ 無理のないよう、役割分担・段取り等を事前に計画・準備する。

(様式2)

大阪市立長谷川小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】 ○ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を76%以上にする。 ○ 小学校学力経年調査における、国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。 ○ 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して肯定的に回答する児童の割合を91%以上にする。 ○ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を81%以上にする。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【2-(4)、誰一人取り残さない学力の向上】 少人数の学習形態を生かし個に応じた指導を実施し、学習効率を高める。 ----- 指標 ・現在の学力から、指導する内容を決め、理解度をテスト等で把握する。	B
取組内容②【2-(4)、誰一人取り残さない学力の向上】 年間計画に沿って教科・領域・道徳の研究授業、または、ライフスキル教育の授業公開を行い、指導力の向上に取り組む。 ----- 指標 ・言語活動の充実を図るために、教員全員が、研究授業または、ライフスキル教育の授業に取り組む。	B
取組内容③【2-(5)、健やかな体の育成】 学期ごとの保健週間や姿勢検査を実施、保健指導を通して、手洗い、うがい、歯みがき、正しい姿勢が身につくように指導する。 ----- 指標 ・健康的な生活習慣が身につくように指導した後がんばりカードで評価する。	B
取組内容④【2-(5)、健やかな体の育成】 基礎体力の向上を目指し、主体的に運動に取り組む児童を育てる。 ----- 指標 ・がんばりカードを作成し、活用する。 ・毎時間の準備運動に、バランス感覚や柔軟性を養う運動を取り入れる。	B

<p>取組内容⑤【2-(5)、健やかな体の育成】</p> <p>給食指導の中で、季節の行事食等を通して、「食」への関心を高め、知識向上にむけて取り組む。</p>	B
<p>指標</p> <p>・給食指導、「食」に関する指導を計画的に実践する。</p>	
<p>取組内容⑥【2-(5)、健やかな体の育成】</p> <p>子どもの実態に合わせ、性に関する指導を行う。</p>	B
<p>指標</p> <p>・性に関する指導の取り組みを、実施計画どおりに実践する。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>① 児童一人一人の現在の学力から、毎時間常に指導する内容・方法を調整し、理解度を市販のテスト等で把握、次時の学習にフィードバックできた。2～4年、5・6年のAB二つのグループで複数教職員が教科担任として関わることにより、児童の課題に全教職員で対応する体制が整っている。</p> <p>② 一部音楽科や英語科では、中学校教員による授業を受けることで、より専門的な知識・学習方法を学ぶ機会を得ることができた。また、グループ内・全体で体育科他教科ごとに担当をもつことで、教科の専門性と授業の質の向上が認められると共に、多くの教員が関わった。このことが、多面的・重層的な児童理解につながった。</p> <p>③ 清潔検査を定期的実施することで、児童自身が身だしなみを意識して生活している。学期ごとの保健週間も計画通りに実施できている。また、結果をまとめ、そこから得た情報をもとに、日々の生活指導に生かすことができた。毎月の保健指導は時宜を得て工夫された内容で、どの児童もよく聴き理解しできている。自身の生活態度を見直すきっかけとしている。</p> <p>④ 毎時間の準備運動に柔軟性を養う運動を取り入れていた。他には、筋力と持久力を高める運動にも取り組んだ。また、これらを児童（係）が主体的に下級生を上手くリードしながら進められた。主体的に目的意識をもって進んでやることができた。また、そのリーダーも一人や二人でなく、幾人もそれぞれが「自分にもできる！」という経験を多く積むことができた。確かな自信を深めている様子が見られた。</p> <p>⑤ 毎日の給食指導の際、食事・配膳に対する感謝の気持ち・挨拶（いただきます。ごちそうさまでした。配膳ありがとうございます）と共に、食事のマナーについても細かく指導できた。指導者の粘り強い付き添い、励まし・食事量の調整等により、ほとんど食べ残しをすることがなかった。</p> <p>⑥ ライフスキル教育「性についての学習（ライフスキル教育）」として、6月19日（木）2限目に2～6年生に助産師：井上 鈴佳先生をお招きして、2階会議室にて実施。内容はトランスジェンダーのパートナーとのお話から、性の在り方は人それぞれ違うこと、色んな生き方・家族の形があることについて学んだ。また、5・6年対象の臨海学習前には、女子児童に対し養護教諭から改めての性教育（初経指導）を実施できた。</p>	

次年度への改善点
後期に向けて、 ① 多様な意見に触れる機会の減少になりがちなので、この点についての配慮もしながら指導する。 ② 教職員相互の連携を強化し、児童の状況把握や指導の一貫性が損なわれないようにする。 ③ 全校挙げて継続的な全校指導が実。 ④ 体を動かすのがおっくう・苦手な子、全学年を同時に巻き込んで取り組めるような教材の工夫。 ⑤ 指導者の粘り強い付き添い、励まし・食事量の調整。 ⑥ 課題のある行動を抑止・制止する際の指導の仕方・言い方を工夫する。

(様式 2)

大阪市立長谷川小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】 ○ 授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 75%以上にする〔ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く〕。 ○ 第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 1 を満たす教職員の割合を 80%以上にする。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
取組内容①【3-(6)、教育 DX (デジタルトランスフォーメーション) の推進】 ICT・デジタル教材を活用した授業づくり ----- 指標 ・ ICT・デジタル教材を活用した教科学習を、週 5 時間実施する。	B
取組内容②【3-(7)、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 長時間勤務の解消 ----- 指標 ・ 長時間勤務の解消に向けた意識醸成を図るため、退勤目標時刻を設定するとともに、時間外勤務時間の状況について、毎月教職員に個別に通知する。	B
取組内容③【3-(7)、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 「学校園における働き方改革推進プラン」(令和元年 12 月策定)に示されている取組を実践していく。 ----- 指標 ・ 教育委員会から示される他校園における働き方改革の好事例を教職員に示し、本校の実情に合わせた取組を実践し、働き方改革を推進していく。	B
取組内容④【3-(8)、生涯学習の支援】 各教科等における言語活動の充実を図りながら、図書室を効果的に利用する。 ----- 指標 ・ 外部から講師を招き、読み聞かせを実施する (学期 2 回)。学習したことを、発表できる場を全体で作る (学期に 2 回)。	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
① ICT・デジタル教材を活用した教科学習を、週 5 時間以上実施できた。また、毎時間、ほとんどの教科で ICT・デジタル教材を使うようになった。学年によって児童の実態・発達の段階も違うが、一人一台端末の正しい使い方が学校全体に広まっている。	
② 時差勤務制度も上手に活用し、校務能率の向上とワークライフバランス意識をもちなが	

ら、効率的に勤務できた。また、過剰な時間外勤務時間の発生を防ぐよう、お互いに時間意識をもって勤務に向かうことができた。夏季休業時（８月）に学校閉庁日を３日間設けることができた。テレワーク制度の理解、積極的な活用・運用が定着してきた。

- ③ 長時間勤務を解消することで、教員が子どもたちの前で生き生きと働くことができ、子ども達一人一人に寄り添うための時間を確保することができるよう、当該プランの順守に努めた。
- ④ 外部から講師を招き、本の読み聞かせ（東住吉図書館・お話ころりん）を実施した。これを機会に、読み聞かせで取り上げられたテーマの本を手にする児童が多く見られるようになった。お話会にはほぼ全員が参加できるようになっている。聞く姿勢・態度も昨年度より更に向上した。

次年度への改善点

後期に向けて、

- ① 学習者用端末を、思考整理シートや振り返りシート、授業記録・日誌といったように、少しずつ本来的な使用方法に近付けていく。
- ② 過剰な時間外勤務時間の発生を防ぐよう、お互いに「時間意識」をもって勤務に向かう。
- ③ 引き続き人材の確保に努める。
- ④ 話を聞く力を養うために、聞く際は話し手の気持ちも汲み取りながら、否定や遮りをせず、最後まで話を聞くという態度を育てる。